

里山暮らしの
多様な楽しみ方を
広く発信していきたい！



福田

まさし
将志さん、
ゆみこ
由美子さん

from 兵庫県 → to 紀宝町

都会から一転、 田舎へ移住

僕が生まれ育ったのは兵庫県尼崎市の工業地帯で、20代から東京に住んでいましたが、40歳のときに都会生活に行き詰まり、縁があって和歌山県の新宮市で介護の仕事をして生活をするようになりました。そのうち職場の同僚から、紀宝町の浅里地区に安い借家があるという情報を聞きつけ、当時の区長さんに紹介してもらい、この町で一人暮らしを始めることになったんです。

いま僕は紀宝町で介護の仕事をしてしながら、まちづくり活動をしています。が、まちづくりに興味を持ったきっかけが、2008年に明治大学が新宮市で開催した「外国人向け観光ガイドの育成プロジェクト」の受講でした。受講した際に、熊野の歴史や食などをもっと奥深く学

びたいと思うようになって、講座で知り合った仲間に誘われ世界遺産「川の参詣道」熊野川でガイドをしたほか、熊野の魅力を提供する「熊野セラピスト養成講座」や「南紀熊野ジオパークのガイド養成講座」で資格を取得してきました。

地域の魅力を掘り起こす まちづくり活動を実践

紀宝町に移住して最初に取り組んだまちづくりが、梅畑の整備です。樹齢50年以上の梅畑があり、ずっと手つかずで草も伸び放題でしたが、これはもったいないと思い、梅農家をやっている友人に栽培方法を教わり、手入れをし



浅里で採れた山桃のジャム



天然の石の上でコーヒーやケーキを振る舞う「沢Caffe」。

たらとてもよく実ったんです。これを機に、2017年に「飛雪の滝 里山塾」を設立し、梅狩り体験ができる里山ウォーキングツアーを実施しました。

翌年4月には「熊野セラピスト」のガイド仲間だった由美子さんと結婚し、2人でまちづくり活動に取り組むことになりました。妻は紀宝町で「地域おこし協力隊」として、飛雪の滝キャンプ場の立ち上げから3年間運営に携わりました。僕たちは里山暮らしの魅力をもっといろんな人と共有したいと思い、町の健康促進事業の一環で「紀宝町山歩き部会」の世話人を引き継いで活動しています。町の広報紙を通じて参加を呼びかけ、当日までに下見や道の整備などの準備をしながら、月に1度山登りに出かけています。紀宝町には一般的なマップに載っていないような秘密の場所がたくさんあって、そんな穴場スポットも案内しています。地元の人とは当たり前であまり関心がないようなことも、興味を持って見てみると何かかも面白くなってくるんですよ。

2021年4月からは、紀宝町での生活や季節ごとの体験が楽しめる着地型観光ビジネスとして「くまの里山体験のら」を始める予定です。「のら」は野良仕事の「野良」や「～ですね」という意味の方言でもあります。フィンランド語では数字の0をnollaといいます。そして、熊野は「蘇りの地」とも云われることから、生まれ変わりといった意味合いから名付けました。

※「地域おこし協力隊」の活動は2020年12月で終了。



(上)「くまの里山体験のら」では植物から精油や芳香蒸留水を抽出する体験もやっています。
(左上) 梅畑の木漏れ日が心地良い。(左下) 訪れた人たちは、おとぎ話の世界に来たみたいと喜んでくれます。

紀宝町は自然や歴史の 宝庫です

春になれば山菜がたくさん収穫でき、幻の山菜と言われる「シオデ」は、天ぷらはもちろん、さっと湯がいてマヨネーズをつけて食べるとアスパラガスみたいでおいしいんです。また、夏は爽快な沢遊びが楽しめて気持ちいいですし、夜は月夜や星がすごく明るいんです。そんな風に、この町には自然や歴史の宝物がいっぱいあるんです。ずっと都会暮らしだったので、どれをとっても感動ですし、都会とはぜんぜん時間の流れが違うところにも魅力を感じます。

格好つけるわけじゃないですが、そんな紀宝町に僕は引き寄せられた感じがするんですよね。地元でもなく、親戚もない土地に40代のおじさんが突然やってきたにも関わらず、地域のみなさんが温かく迎えてくれたことが、本当に心地よかったんです。少し早く仕事が終わったときも、区長さんや地区の方が「おかえり」って声をかけてくれると、帰ってきたなと実感します。地区のみなさんは元気ですがほとんどがご高齢なので、若者が来たと喜んでくれたこともうれしかったですね。今後も、紀宝町にある宝物の数々を活用して、自分たちが楽しいと思うことをもっと発信し、何かしら地域の役に立てていきたいです。国内だけでなく海外の方にも僕たちの生活を体験してもらい、リピーターになってくれたらうれしいですね。

紀宝町に住んで

移住先を選ぶポイントは、やっぱり自分に合うと感じるところだと思います。僕が一番居心地がよいと感じるのは、役割があって期待されていることですね。東京にいたときは、年齢を重ねるにつれて、自分の役割がどんどん少なくなっていくような寂しさがありました。ここへ来たら50代でも若手ですからね。自分に役割があるのは、ありがたいことです。



枠に入りきらない里山の魅力。「にほんの里100選」に選ばれた浅里の風景が広がります。



我が家のアイドル
愛猫のうめちゃん

移住年月：2015年12月
兵庫県から移住し、和歌山県出身の由美子さんと結婚。2021年から着地型観光「くまの里山体験のら」で新たなまちづくり活動を始動！